

2017年度 第2四半期決算説明会

決算総括及び2018.3月通期見通し

2017年11月29日

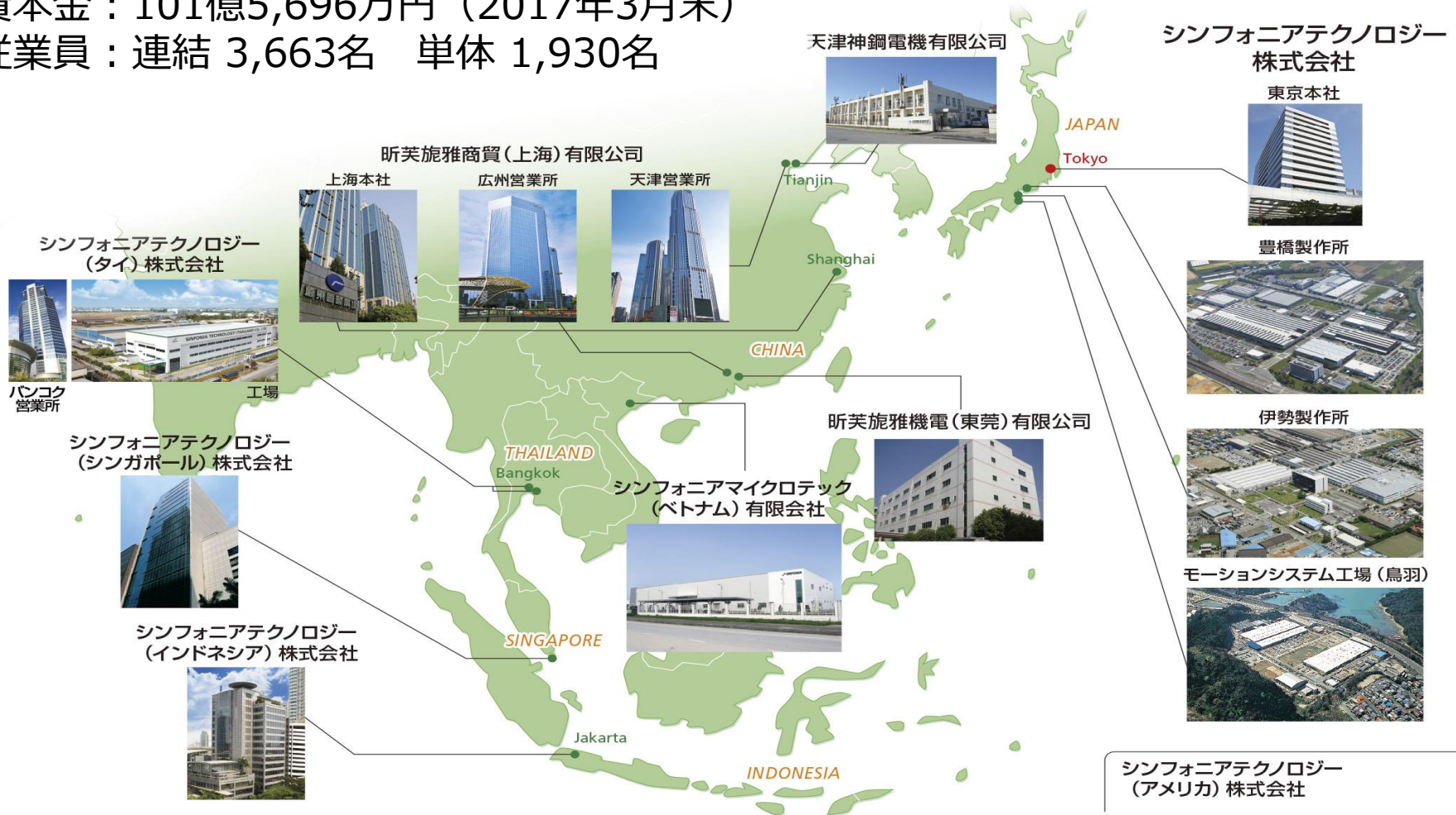
シンフォニア テクノロジー 株式会社

(証券コード6507)

●会社概要・沿革	P.3
●2017年度上期決算概要	P.5
●2017年度業績見通し	P.10
●中期経営計画の進捗	P.14

会社概要・沿革

創業 : 1917年5月 (大正6年)
設立 : 1949年8月 (昭和24年)
資本金 : 101億5,696万円 (2017年3月末)
従業員 : 連結 3,663名 単体 1,930名



当社のあゆみ

1878年旧鳥羽藩士による造船業に始まり

1917年鳥羽造船所内に電機工場を建設し創業となる



創業当時1917年の鳥羽造船所

2017年
創業100年

事業

半導体分野、宇宙など新分野進出

電車用モータ、クラッチ、振動機器、産業車両の開発

船舶用電動機、人造絹糸用モータ、航空機用発電機の開発

社名	鳥羽造船所	鈴木商店傘下	神戸製鋼所時代	神 鋼 電 機				シンフォニアテクノロジー		
年	1878	1917 創業	1920 1927	1940	1949 設立	1960	1980	2000	2009 2010	2017



2017年度上期決算概要

2017年度上期連結決算

(単位：億円)

	16年度 上期実績	17年度 上期実績	前年同期比		(参考) 5/12公表ベース	
			増減額	増減率	上期予想	増減額
売上高	345.5	388.5	43.0	12.4%	390.0	▲1.6
営業利益	6.6	13.1	6.5	97.8%	12.0	1.1
経常利益	6.2	13.1	6.9	111.7%	10.0	3.1
当期利益 (※)	3.5	10.1	6.6	191.6%	7.0	3.1

(※)親会社株主に帰属する当期純利益

セグメント別業績

- 航空大型案件の売上、好調なFA・半導体業界、および設備投資の増加により増収・増益

(単位：億円)

		16年度 上期実績	17年度 上期実績	前年同期比	
				増減額	増減率
モーション機器	売上高 営業利益	142.0 ▲0.3	166.2 4.4	24.2 4.7	17.0% —
パワーエレクトロニクス機器	売上高 営業利益	132.0 7.2	151.5 11.5	19.5 4.2	14.8% 58.6%
サポート＆エンジニアリング	売上高 営業利益	71.5 ▲0.2	70.8 ▲2.5	▲0.7 ▲2.3	▲1.0% —

受注実績（セグメント別）

■前年同期比受注高は減少も、受注残高は増加

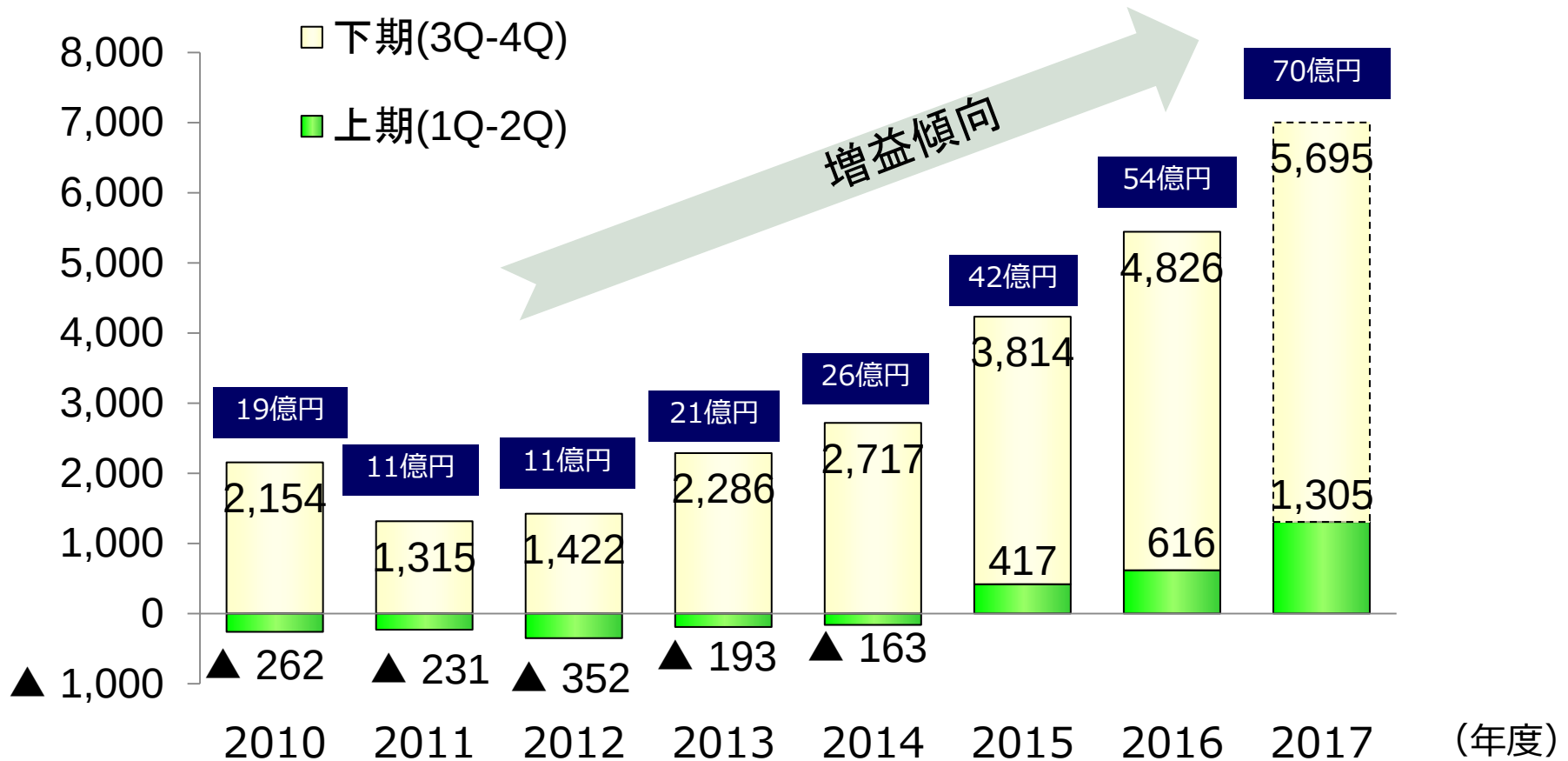
（単位：億円）

		16年度 上期実績	17年度 上期実績	前年同期比	
				増減額	増減率
モーション機器	受注高	203.2	191.1	▲12.1	▲6.0%
	受注残高	235.9	242.6	6.7	2.8%
パワーエレクトロ ニクス機器	受注高	187.1	175.3	▲11.8	▲6.3%
	受注残高	200.5	201.2	0.8	0.4%
サポート& エンジニアリング	受注高	103.3	93.3	▲10.0	▲9.7%
	受注残高	79.9	85.6	5.7	7.1%
計	受注高	493.6	459.7	▲33.9	▲6.9%
	受注残高	516.4	529.5	13.1	2.5%

経常利益推移

(単位：百万円)

17年度
1Q単独で初黒字
1Q:255百万円





2017年度業績見通し

2017年度連結業績見通し

(単位：億円)

	16年度 実績	17年度 見通し	対前年比		(参考)
			増減額	増減率	中期計画
受注高	932.2	1000.0	67.8	7.3%	1,050.0
売上高	842.3	950.0	107.7	12.8%	1,000.0
営業利益	52.2	76.0	23.8	45.6%	80.0
経常利益	54.4	70.0	15.6	28.6%	70.0
当期利益(※)	39.8	49.0	9.2	23.2%	45.0

(※)親会社株主に帰属する当期純利益

セグメント別見通し

■ 半導体・FAおよび設備投資の好調維持により、増収・増益を計画

(単位：億円)

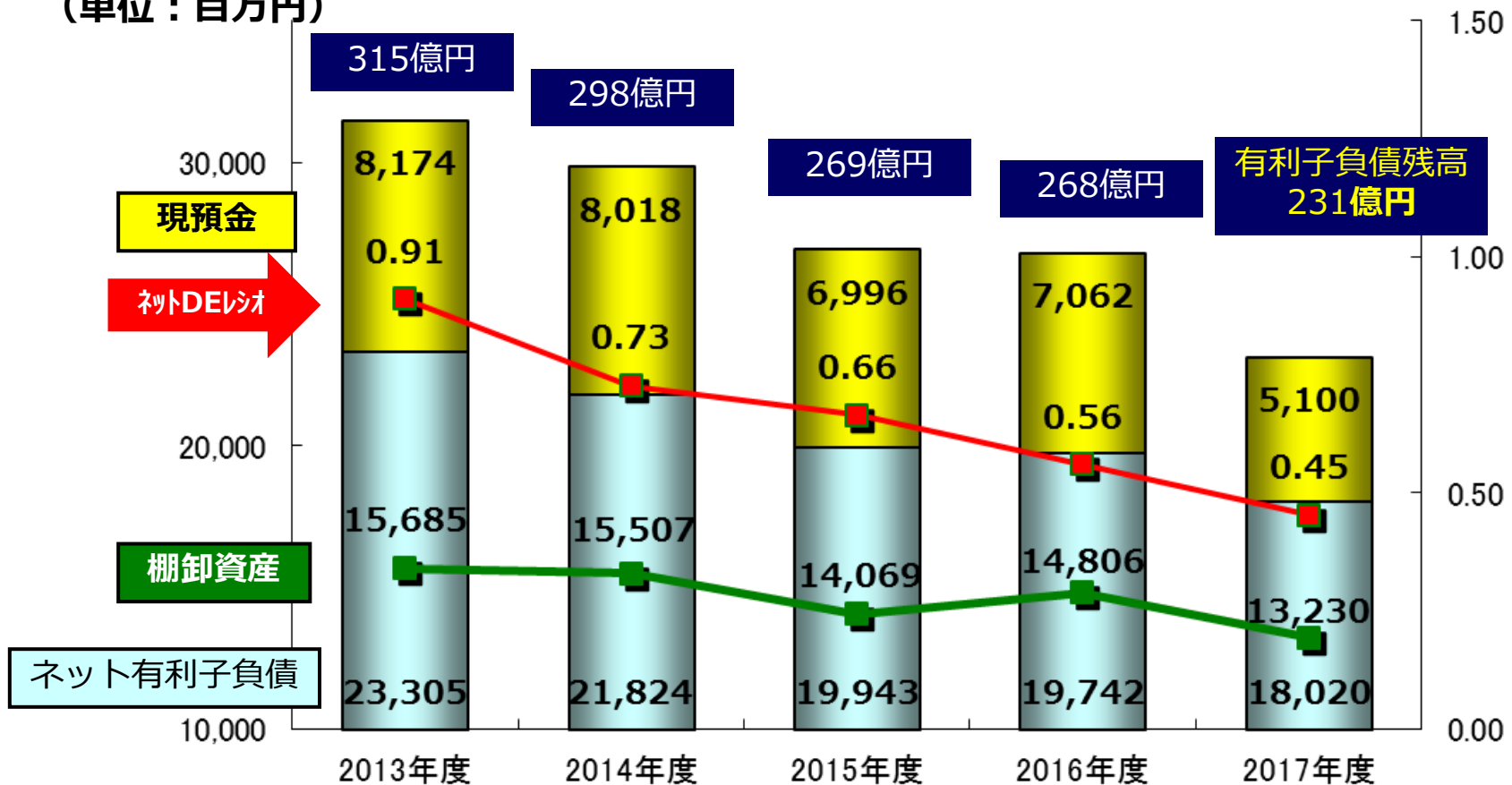
		16年度 実績	17年度 見通し	対前年比	
				増減額	増減率
モーション機器	売上高	339.1	380.0	40.9	12.1%
	営業利益	11.9	22.0	10.1	84.9%
パワーエレクトロ ニクス機器	売上高	322.9	370.0	47.1	14.6%
	営業利益	28.8	39.0	10.2	35.4%
サポート＆ エンジニアリング	売上高	180.3	200.0	19.7	10.9%
	営業利益	11.5	15.0	3.5	30.4%

有利子負債の推移

■ 2018年3月末、ネットDEレシオは0.45倍

(単位：百万円)

(倍)





中期経営計画の進捗

中期経営計画の進捗

(中期経営計画目標)

BRIDGE 100

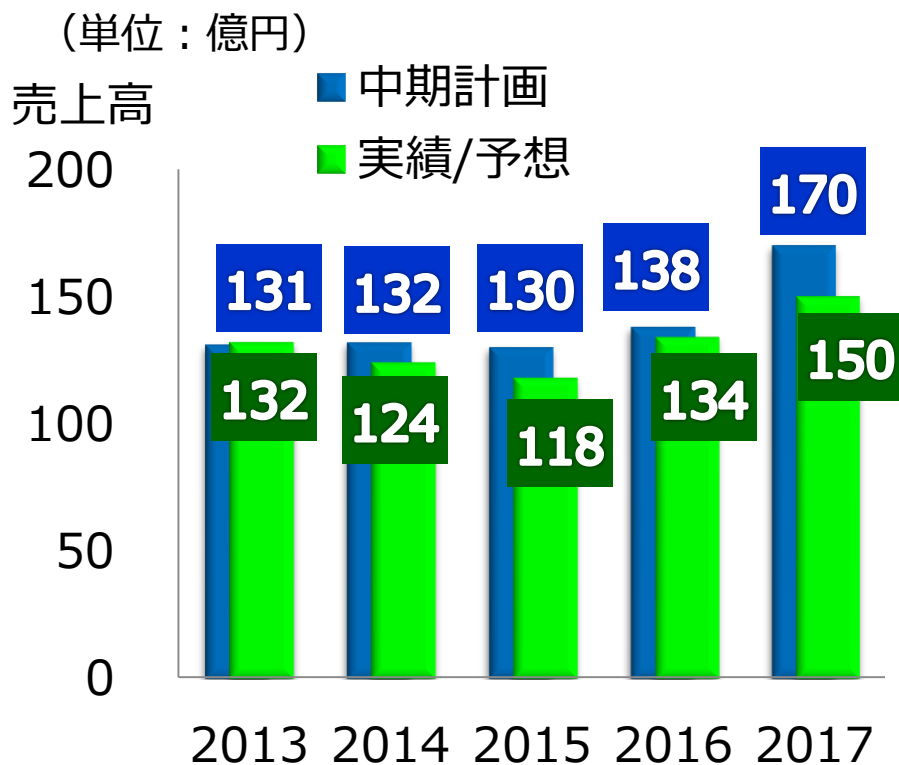
	13年度実績 (初年度)		17年度目標 (最終年度)		17年度見通し
受注高	753億円		1,050億円		1,000億円
売上高	743億円		1,000億円		950億円
営業利益率	3.2%		8.0%		8.0%
(営業利益)	(24億円)		(80億円)		(76億円)
経常利益率	2.8%		7.0%		7.4%
(経常利益)	(21億円)		(70億円)		(70億円)
ROA	2.7%		8.0%		7.5%
有利子負債残高	315億円		300億円以下		231億円
ネットD/Eレシオ	0.91倍		0.6倍以下		0.45倍

中核事業 ①航空宇宙事業

防衛、ロケットや衛星など宇宙分野、民間航空機市場の拡大

下期取り組み

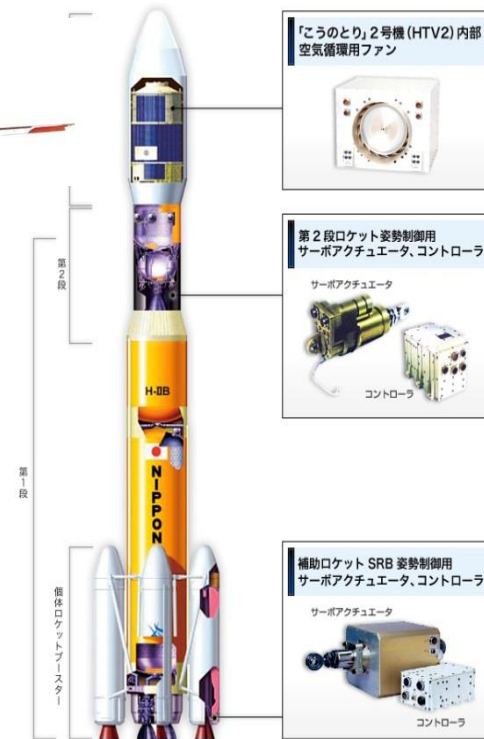
- H 3 ロケット、将来イプシロンロケット向けアクチュエータの開発
- 防衛新分野（艦船・車両・装備品）の開発



固定翼哨戒機 (P-1)



(参考)「こうのとりの
H-2Bロケット2号機



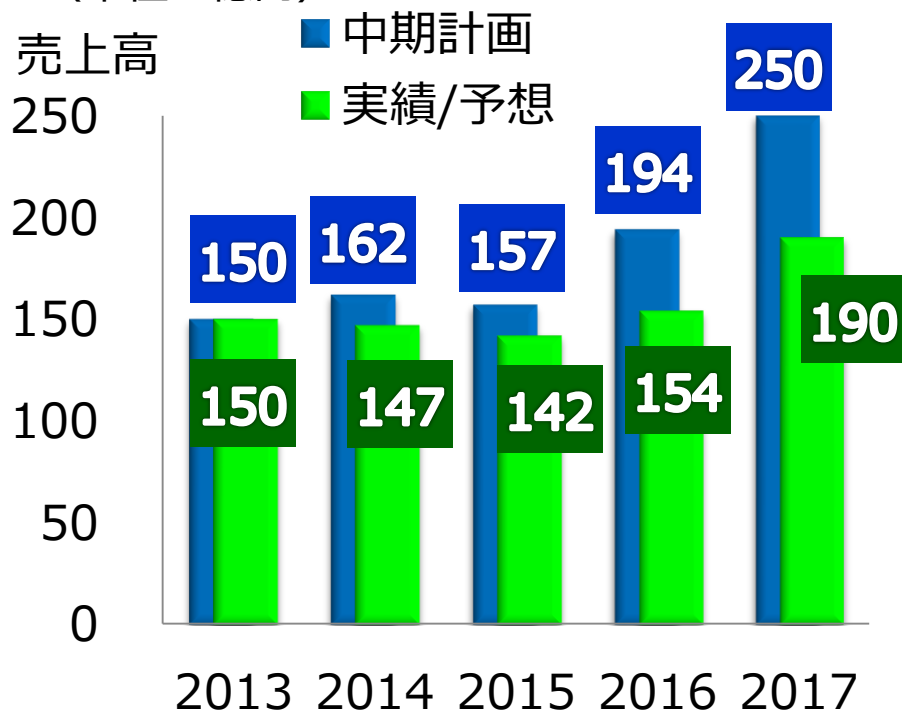
中核事業 ②モーションコントロール機器事業

ロボット、半導体関連は引き続き好調、自動車業界は堅調

下期取り組み

- FA向けブレーキ、半導体向けアクチュエータの拡販
- 自動車・EV用アクチュエータの量産準備

(単位：億円)



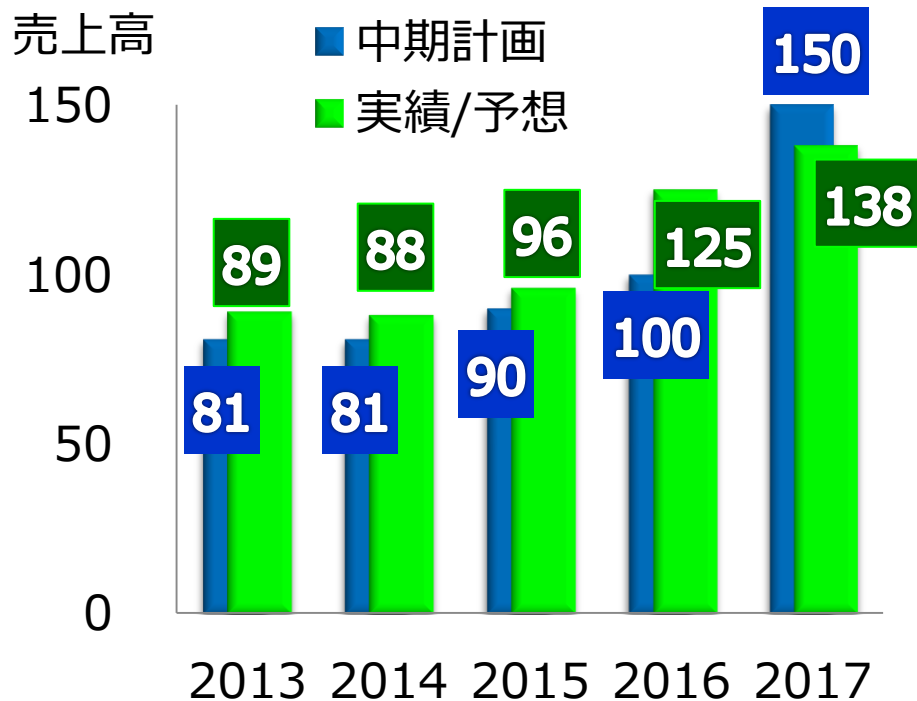
中核事業 ③クリーン搬送機器事業

半導体製造装置市場は好調継続

下期取り組み

- 真空搬送技術、MOCVD装置用搬送ソリューションの開発
- 細胞培養無菌搬送システムなど医療分野への参入

(単位：億円)



E F E M

ロードポート



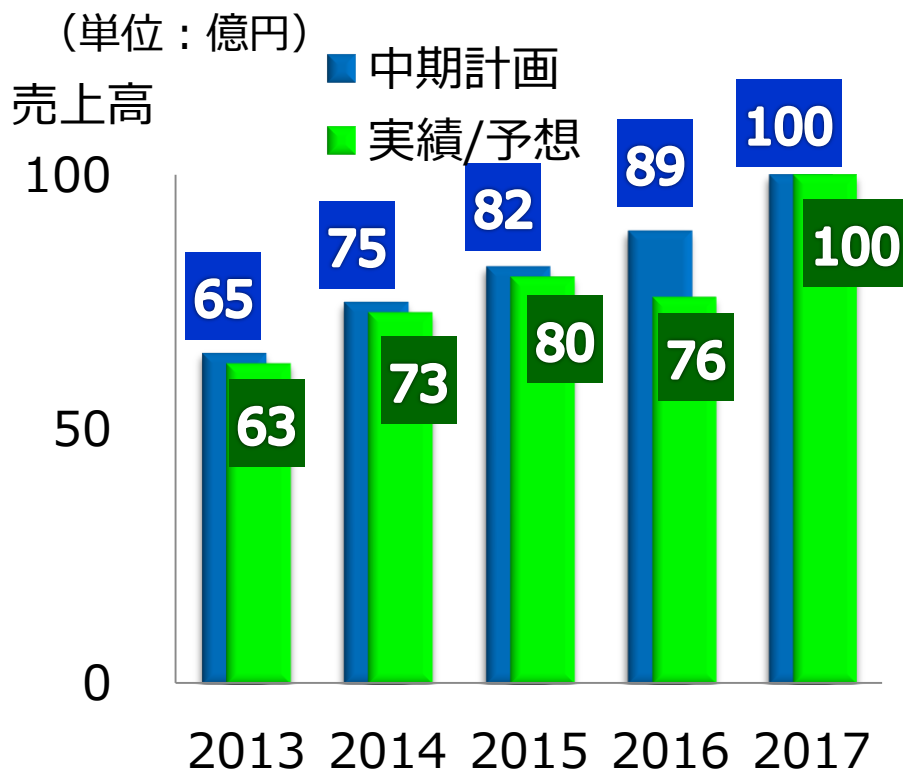
内部写真：ロボット

中核事業 ④振動機器事業

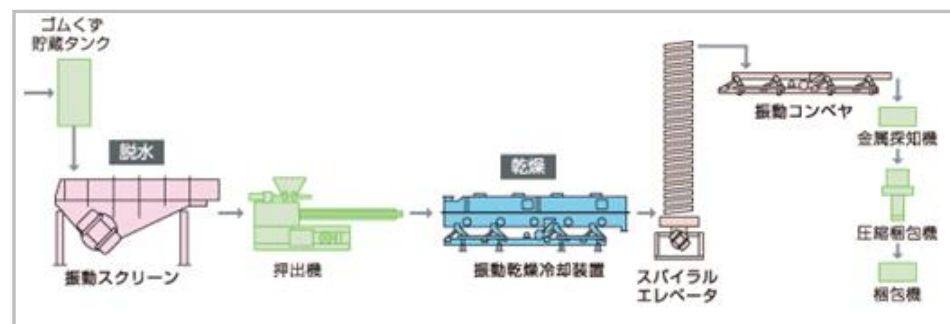
設備投資は回復基調、海外は素材関連の復調、製糖向け需要増

下期取り組み

- システム化対応・アライアンスによる付加価値向上と新規顧客開拓
- 海外モデルの拡販



システム化対応例：合成ゴム製造工程



画像処理システム付
パーツフィーダ



振動乾燥・冷却装置

グローバル事業拡大

東南アジア市場での拡販に向けたアライアンス強化



空港用地上支援車両
ハイリフトローダ

- 空港関連設備の投資計画は旺盛
- 空港用地上支援車両のタイ生産開始



ベルトローダ



鉱山用の振動スクリーン

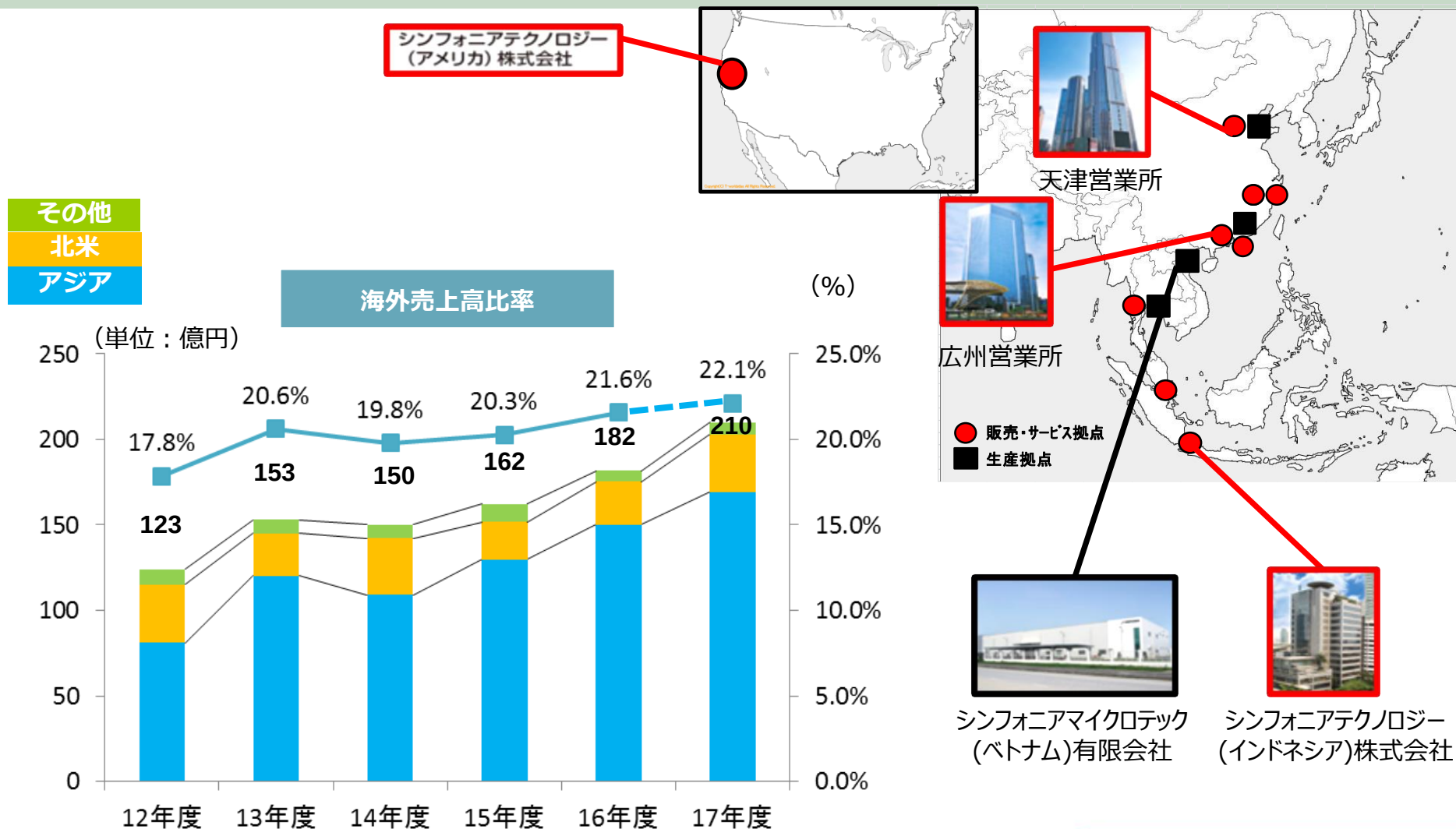
- 新興国における資源需要の高まり
インドネシアは世界有数の資源国
- 大形振動スクリーン、大形フィーダ
のインドネシア生産開始



振動フィーダ

グローバル事業拡大

拠点整備を着実に遂行し、体制強化



新分野への挑戦

モーション&エナジーコントロール技術による製品開発を推進

超高速S R モータ

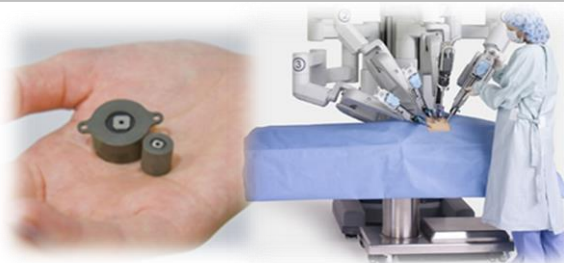


- 高温環境対応
- 20万回転駆動の高速回転

用途

- 電動ターボ搭載車
- 航空機用スタータジェネレータ

超小形保持用ブレーキ



- 低消費電力
- 直径10mm
高さ10mm
- 従来品比 1 / 3
の体積

用途

- 医療用ロボット
- 義手
- ドローン

圧電バルブシステム



圧電バルブシステム 「DIGIVAL」

- 従来比10倍の高速応答
- 連続10億回以上の高耐久性

用途

- 高速チップマウンター
- パーツフィーダ

新分野への挑戦

将来に亘って拡大し続ける新分野で事業の柱を創出



細胞培養容器
自動搬送システム



不要細胞除去装置
(セルクオリア)



抗がん剤調製装置



医療



コンテナ式陸上養殖システム



完全人工光型植物工場



豊橋植物工場実験
センター (イメージ)



大葉収穫作業
支援ロボット

農水産業

本資料中の業績予想、見通し及び事業計画については、現時点における将来環境予測等の仮定に基づいております。

本資料において当社の将来の業績を保証するものではありません。